

新庄村とインドネシア・ハサヌディン大

# 有機農業普及へ協定

## AMDAと連携 研修受け入れ

新庄村は、インドネシア・スラウエシ島南部のマリノ地区にあるハサヌディン大の実験ほ場「マリノ実習地区」と、有機農業普及などに協力して取り組む協定を結んだ。関係者が18日に記者会見し、早ければ5月にも同大の学生らが同村で研修を始める計画を明らかにした。

新庄村は国際医療ポランティアAMDA（本部・岡山市北区伊福町）などと連携し、アジアでの有機農業普

及に取り組んでいる。

同実習地区責任者のアンディ・フスニ・タングラ同大教授がAMDAインドネシア支部長を務めていることが縁となり、1月31日～2月4日、笹野寛村長らがAMDAに同行して現地を訪れ、同3日に協定書に署名した。

会見には笹野村長やAMDAの菅波茂代表らが出席。AMDAは早ければ5月から約半年間、同大学生などから選んだインドネシア人2人程度を新庄村にあるAMDA野土路農場で受け入れる考えを発表。村は技術指導や人材育成に協力する。

このほか、協定には村と現地の子どものための交流活動も盛り込まれており、笹野村長は「海外との連携は住民の視野の拡大につながる。協定を子どもへの英語教育などにも生かしたい」としている。

（三島翔）